

○登壇者プロフィール

シープー・ワン（王士圃、ShiPu Wang、カリフォルニア大学マーセド校教授）

第二次世界大戦前を中心としたアジア系アメリカ人画家、特に日系移民画家を専門とする。2023 年よりスミソニアンアメリカ美術館の学術協力を務める。おもな著作に *Becoming American?: The Art and Identity Crisis of Yasuo Kuniyoshi*(Univerisy of Hawaii Press, 2011), *The Other American Moderns. Matsura, Ishigaki, Noda, Hayakawa* (Penn State University Press, 2017, the 2018 Georgia O’Keeffe Museum Book Prize)おもな企画展に *Chiura Obata: An American Modern* (Smithsonian American Art Museum, 2018), *Pictures of Belonging: Miki Hayakawa, Hisako Hibi, and Miné Okubo* (2024 年からはアメリカ各所を巡回)。

森本陽香（名古屋市美術館学芸員）

大阪大学大学院文学研究科文化表現論専攻修了。北海道立近代美術館学芸員をへて、2018 年より名古屋市美術館学芸員。おもな担当展に「ゴッホ展 巡りゆく日本の夢」（北海道立近代美術館他、2017）、「ゴッホ展—響きあう魂 ヘレーネとフィンセント」（東京都美術館他、2021-22）、「布の庭にあそぶ 庄司達」（名古屋市美術館、2022）、「福田美蘭 美術って、なに？」（名古屋市美術館、2023）。

伊藤駿（岡山大学国吉康雄記念・美術教育研究と地域創生講座助教）

2018 年より岡山大学に、地域の文化資源の運用研究のため特任助教として着任。国吉関連では、岡山大学文明動態学研究所とのアメリカでの調査活動で主任を務め、ニューヨークの日本クラブでの講演「国吉康雄 ニューヨークでの人生と作品」（2025）や茨城県近代美術館で開催された「国吉康雄展 安眠を妨げる夢」（2023）などを企画。岡山大学病院のホスピタルアートを企画。手がけたアートイベントで「第 20 回岡山芸術文化賞」「第 61 回熊本県芸術文化祭奨励賞」等を受賞。

渡邊郁夫（修復家、修復研究所 21 所長）

1987 年、学校法人高澤学園創形美術学校修復研究所（現・修復研究所二十一）入所し、油絵の修復に従事するとともに、古典絵画技法についての調査を開始する。1996～1997 年、文化庁在外研修員として、ベルリン美術館群ラトゲン研究所およびプロイセン城郭庭園財団にて研修を行う。1998～2003 年、東京藝術大学大学院文化財保存学保存修復(油画)研究室非常勤講師。2005 年～2024 年、東海大学非常勤講師として古典技法と絵画組成論を担当。

土師 広（修復家、土師絵画工房代表）

東京藝術大学大学院保存修復油画研究室修了後、神奈川県立近代美術館にて保存修復インターン研修。フリーランスの保存修復家として活動を始め、2017年に株式会社土師絵画工房を設立。現在は、東京国立近代美術館をはじめ、各地の美術館や文化機関、財団、ギャラリー等において、絵画作品を中心とした保存修復業務に携わっている。

三浦 篤（大原美術館館長、東京大学名誉教授）

東京大学教養学部、同大学院を経て、パリ第4大学で博士号取得。専門は西洋近代美術史、日仏美術交流史。フランス共和国芸術文化勲章シュヴァリエ受章、紫綬褒章受章。主な著作に『近代芸術家の表象 マネ、ファンタン＝ラトゥールと1860年台のフランス絵画』（2006、サントリー学芸賞）、『エドゥアール・マネ 西洋絵画史の革命』（2018）、『移り棲む美術 ジャポニズ、コラン、日本近代洋画』（2021、和辻哲郎文化賞、芸術選奨文部科学大臣賞）、『大人のための印象派講座』（2024）など。

林 洋子（兵庫県立美術館館長、本展監修者）

美術史研究者、キュレーター、パリ第一大学にて博士号取得。東京都現代美術館学芸員、京都造形芸術大学教員、文化庁芸術文化調査官を経て、2023年4月より現職。現代美術ならびに藤田嗣治関係の展覧会企画や著作多数。

○発表者のレジюмеにつきましては、準備が整い次第、公開してまいります。